

コミュニティ会議代表者との協議の場(全体)

平成28年度  
地域づくりのしくみの振り返り

# 活動報告

- |     |       |               |
|-----|-------|---------------|
| I   | 花巻地域  | 宮野目コミュニティ会議   |
| II  | 大迫地域  | 外川目地区コミュニティ会議 |
| III | 石鳥谷地域 | 好地地区まちづくり委員会  |
| IV  | 東和地域  | 成島地区コミュニティ会議  |

# I 花巻地域

## 宮野目コミュニティ会議における成果の 振り返りと今後の取り組みについて

### 実施報告

花巻市 総合政策部地域づくり課地域支援室

# 宮野目第1回の振り返り①

## コミュニティ会議の成果（グループワークの意見）

- ハード面の整備が進んだ。（舗装、街路灯、防犯灯、カーブミラー等）
- 世代間交流、子供や女性、歴史・伝承活動が行われるようになった。
- 防犯や交通安全の取り組みが進んだ。
- クリーン作戦や花いっぱい運動がよい。
- 住民同士の顔が見える付き合いができるようになった。
- 地域内の各種団体の連携が図られるようになった。
- 地域に必要なことをスムーズに実現できるようになった。
- 住民主体の意欲や仕組みができた。
- 市の事業と一体的に行うことでより効果的に事業が行える。
- 市への要望が通りやすくなった。

## 宮野目第1回の振り返り②

### コミュニティ会議の課題（グループワークの意見）

- 1) 事業の改善や見直しが必要
- 2) 事業の周知やPRや不足している
- 3) 地域や地域づくりに対する住民の意識や意欲が低い
- 4) 事業が多すぎる
- 5) 参加者が少ない、若い人の参加が少ない
- 6) 他の組織との連携や役割分担が分からない
- 7) 役員の負担が大きく、なり手も限られる
- 8) 組織体制の課題
- 9) コミュニティ会議の意義の周知が必要である

# 宮野目第1回の振り返り③

## コミュニティ会議の課題（グループワークの意見） 続き

- 1 0) 地域からの要望や意見のまとめ方を見直す必要がある
- 1 1) 事業や運営の無駄のチェックや改善が必要である
- 1 2) コミュニティ会議と市の役割分担が分かりづらい
- 1 3) 行政の支援やサポートが必要
- 1 4) 交付金のあり方について
- 1 5) コミュニティ会議という市の事業の狙いと効果の検証が必要



# 宮野目第2回の振り返り

「成果と課題をふまえて～解決策を考える<ヒント>～」

## 【課題】

- ①わからない！
- ②参加が少ない（ニーズと財源・権限のミスマッチ）
- ③行政の支援（サポート不足、コミとの役割が不明確）

## 【ヒント】

- ①役割分担（実行部隊、コミュニティ、まちづくり支援、行政）
- ②ニーズの見える化（コミの構成団体の役割が重要）
- ③ニーズの事業化（ノウハウのある中間支援必要）
- ④行政とのしっかりした連携（定期的な役割調整の場）

# 宮野目「役員との意見交換」

第2回のワークショップ終了後に役員との意見交換を実施。

## 【出された意見】

- 2回開催したワークショップに関する意見
- 事務局について
- 交付金や仕組みについて
- 交付金の交付額や手続きについて
- 市との協働、要望



# 宮野目第3回の振り返り

## 「ワークショップ」

### 1) 20年後の夢語り

「私は、20年後の宮野目が〇〇〇〇〇のような地域になっていることを期待します。」という文章を完成させるために、〇〇〇〇〇〇にふさわしい言葉を書いて一人ずつ発表。

### 2) 夢の実現のために取り組むべき活動

「自分が期待する20年後の宮野目になるために、地区民はこれからどんな活動に取り組んでいけばいいと思いますか（必ずしもコミュニティ会議として取り組む活動とは限りません）。取り組めたらいいなと思う活動を考えて、付箋紙に書いてください。」

(各班まとめ：テーマ)

- ・若い世代が地元に残って活躍したいと思える地域（A班）
- ・笑顔溢れる宮野目（B班）
- ・交流が盛んに行われ皆が心豊かな暮らしをしている（E班）
- ・緑ゆたかで元気な宮野目（F班）



# 20年後の宮野目はこうなっていてほしい

## A班 若い世代が地元に残って活躍したいと思える地域

(家庭教育・高給料・芸能・地域・学力)

- A-1 新たな雇用の場を創出・確保し給料の高い仕事が選択できる
- A-2 伝統芸能が身近で、教育×芸能の伝統継承が行われている
- A-3 交通の便に恵まれ、自然と便利を併せ持っている
- A-4 農地の荒廃、後継者不足をプラスに捉え自然環境を守る
- A-5 地域に託児所があり、子どもが遊んでいる
- A-6 中高一貫校の創設により学力の向上が図られている
- A-7 通学可能な大学が充実し、学びたい人が学べる

## B班 笑顔あふれる宮野目

(地場農産品の活用・伝統文化の継承・地域活動の推進・遊休資産の活用・高齢者へのサービス)

- B-1 地産地消がより推進されている
- B-2 農産品加工、特産品開発により農産品の販売が促進されている
- B-3 農家レストランを開設し、宮野目ツアーが農家レストランに来ている
- B-4 神楽などの伝統芸能が子どもたちへ継承され、発表の場も確保されている
- B-5 地区全体参加による運動会や清掃活動、消防団による地域防災活動が行われている
- B-6 空き家や農地のレンタル事業により活用され、定住が促進されている
- B-7 学校給食と一緒に高齢者への給食サービス、食品配達サービスや移動支援サービスが充実している
- B-8 老人カフェなどに集い、高齢者同士の見守りがなされている

## E班 交流が盛んに行われ皆が心豊かな暮らしをしている

(地域活動・交流・高齢者・子ども)

- E-1 防災体制が整備され、地域防災が進められている
- E-2 清掃活動や景観づくりに取り組んでいる
- E-3 運動会や文化祭、伝統行事の復活により世代間交流が進んでいる
- E-4 特産品開発や宮野目ツアー、宮野目カフェ、民宿や民泊により、都市農村交流が図られている
- E-5 空き家や田畑の空き物件情報の発信や紹介を行っている
- E-6 高齢者等への給食サービスの実施と高齢者同士の見守りが行われている
- E-7 子育て支援が活発に行われ、集団登校など子どもの見守りを行っている

## F班 緑ゆたかで元気な宮野目

(安全安心な暮らし・地域の活性化・安定した生活・豊かな環境整備)

- F-1 高齢者の移動支援、高齢者世帯向け除雪支援が充実している
- F-2 高齢者や子どもを見守る
- F-3 季節ごとの伝統行事や、文化祭、運動会が活発に行われている
- F-4 三世代交流など若者が参加する地域行事が行われている
- F-5 新たな雇用の場が創出されている
- F-6 豊かな自然が保護されている

誰が始めるか？

1

誰を巻き込むか？

2

必要な支援は？

3

身近な地域  
でできる  
こと

コミュニ  
ティで取り  
組めること

行政や民間の力  
が必要なこと

地区内に声がけを！  
ニーズ調査を！  
若者チャレンジ枠を！

情報提供・発信を！  
他市の事例を！  
他地区と広域連携を！

## Ⅱ 大迫地域

# 外川目地区コミュニティ会議における 成果の振り返りと今後の取り組みについて 実施報告

花巻市大迫総合支所地域振興課地域支援室

# 外川目第1回の振り返り

「どこまで進んだ？わが地域のまちづくり」  
～10年をふり返り、新たな夢を描こう～

【班ワーク】

- ①情報の見える化～外川目地区の人口と高齢化率を知る～
- ②各自、付箋に新たな20年に向けた夢や課題を書く。
- ③模造紙に貼りながら、意見を出しあう。
- ④意見を整理して、テーマを考える。



## 外川目第2回の振り返り

「どうすればできる？わが地域のまちづくり」

～夢に近づく手だてと課題を考えよう～

### 【班ワーク】

- ①第1回で出された地域の将来像（夢）をどうすれば実現できるか、課題や必要な支援、活動案などを付箋に書いて貼る。（何を見直したらいいか）
- ②出された意見をもとに話し合い、課題ごとに整理。

テーマ① 《子どもが増える地域！》

テーマ② 《外から人が来る地域！》

テーマ③ 《農業を守り自然を生かす地域！》

テーマ④ 《高齢者が元気な地域！》

## 外川目第3回の振り返り

「誰がどうする？わが地域のまちづくり」

～地域と行政、それぞれの役割を確かめよう～

【班ワーク】

①活動案を「だれがやれるか」で分類する。

(班や集落でやれること、コミュニティ地区で考えるべきこと、  
行政が見直すべきこと...の分類)

②それらの中の優先度を整理し、来年度以降に反映できることを考える。

# 外川目を変える40の知恵！

## I. 子育て世代が住み続けられる外川目！

- I-1 小中学校で夢のある教育をする
- I-2 遠足などは地域の自然の中で（焼肉など）
- I-3 「自然」テーマに大学の誘致
- I-4 子育て世代へ空き家貸出しプロジェクト（移住者への優遇措置等）
- I-5 大学生との連携（研究の場に活用）
- I-6 田舎志向の若者と体験交流イベント（体験内容の充実、定例イベント化、参加者へのフォロー、中山間の魅力PR）
- I-7 通信環境の整備（光ケーブル、携帯電話）
- I-8 公共基盤（道路、医療機関、交通など）
- I-9 教育環境（学費・医療費助成、学区再編）
- I-10 商業施設等の誘致

## II. 外から人が集まる外川目！

- II-1 外川目マラソンの開催
- II-2 八木巻神楽鑑賞ツアー（春夏秋冬の味覚ツアーと併せて）
- II-3 自然探訪ツアー（ワラビ採り・釣りツアー、そのためのワラビ園や河川敷の整備など）
- II-4 古民家活用（都会から退職者受入れなど）
- II-5 安心して泊まれる宿の整備
- II-6 グリーンツーリズムの受入拡大（短期滞在の活動モデル作り等）
- II-7 史跡や湧水をめぐる遊歩道の整備
- II-8 ぶどう栽培に定年後の人材活用
- II-9 フルーツ・ツーリズムのまち
- II-10 「来たれ！農業女子」プロジェクト

## III. 農業と自然を守り、残す外川目！

- III-1 草刈りアート・雪アート
- III-2 ミニ水車の活用（流しそめん大会、粉ひき、小発電など）
- III-3 スターウォッチング、デートスポット・パワースポット等の場所づくりとイベント開催
- III-4 名水マップ整備、名水めぐりのウォーキング大会（ホテル）
- III-5 農業アドバイザー、野菜ソムリエを招いて土づくり、畑づくりの勉強会
- III-6 農地のオーナー制、無料レンタル
- III-7 民泊で農業体験・ストレス発散草刈りツアー、1か月のお試し居住
- III-8 山の恵みの特産品化とネット販売（工房を作り山野菜加工、キノコ、川魚、イタリアン野菜）
- III-9 農家（古民家）レストラン・地産地消カフェの開店（郷土料理、料理教室、ジビエ料理、そば・ひつまみ、かま焼き）
- III-10 農業法人化、事務員の雇用（年商1000万）、米で難民救済

## IV. レジェンド（高齢者）活躍の外川目！

- IV-1 伝統技術でモノづくり・販売（わらじ・縄・餅など）
- IV-2 大工や農業などの技能で収入を得る
- IV-3 待機児童など子どもの面倒を見る
- IV-4 若者の支援・指導、高齢者どうしの支援
- IV-5 自家用車での有償運送
- IV-6 移動販売車、無料バスなど足の確保
- IV-7 免許返納者にタクシー割引券の交付
- IV-8 カラオケ、お茶会、旅行などの定期開催
- IV-9 元気でまっせ体操、老人クラブでスポーツ
- IV-10 娯楽施設、医療施設

地区内の調整を！  
若者チャレンジ枠を！

情報提供・発信を！  
NPOや広域連携を！

検討テーマを選ぶ

- ✓ 「やりたいこと」「やれそうなこと」
- ✓ 外川目にとって大事と思うこと
- ✓ 前回話し合ったテーマから
- ✓ ほかのテーマや、コラボもOK

〈例〉【II-6+IV-1】

グリーンツーリズムの体験者にレジェンドの伝統の技を教え、交流する

活動計画を話し合う

- ✓ 誰がやるか？
- ✓ 誰を巻き込むか？
- ✓ 必要な支援は？

身近な地域で  
できること

コミュニティ  
で取り組める  
こと

行政や民間の  
力が必要なこ  
と

## Ⅲ 石鳥谷地域

# 好地地区まちづくり委員会における 成果の振り返りと今後の取り組みについて 実施報告

花巻市石鳥谷総合支所地域振興課地域支援室

# 好地振り返りの経過①

## ▶ 好地地区まちづくり委員会役員との協議 11月18日（金）

- 好地地区まちづくり委員会役員会に支所地域支援室から職員が出席し、ワークショップを好地地区で行うことへの協力要請を行い、実施方法を協議
- 出席者 役員18名、支所地域支援室1名

## ▶ 好地地区まちづくり委員会役員との検討会 11月29日（火）

- ワークショップの進め方を検討するため、好地地区まちづくり委員会の役員に集まっていたき、参加者のあり方、班ごとの検討をあり方を協議した。
- 協議の前に、役重アドバイザーからこれからの地域づくりを検討するために、ワークショップ方式での意見聴取が必要なことの講演をいただいた。
- 出席者 役員14名、市側6名（本庁と各支所の地域支援室職員）



## 好地振り返りの経過②

### ▶ 第1回ワークショップ 12月20日(火)

- テーマ 好地地区の未来を考える・みんなの知恵出しワーク  
「どこまで進んだ? わが地域のまちづくり」  
～10年を振り返り、新たな夢を描こう～
- 内容 ①役重アドバイザーからの情報提供  
ワークショップの目的と進め方について  
②班ごとの検討  
6つの班で「20年後の好地地区はどうなってほしいか」  
について意見を交わし、その結果を模造紙にまとめ発表。
- 出席者 参加者28名、アドバイザー1名(役重)  
役員等12名(役員10名・オブザーバー、事務局2名)  
市側15名(テーブルファシリテーター役12名、ほか3名)

## 好地振り返りの経過③

### ▶ 第2回ワークショップ 1月25日(水)

- テーマ 好地地区の未来を考える・みんなの知恵出しワーク  
「どうすればできる? わが地域のまちづくり」  
～夢に近づく手立てを考えよう～

#### ● 内 容 ①前回の振り返り

②好地地区まちづくり委員会の10年の歩み説明(菊池事務局長)

③考えるための情報提供(役重アドバイザー)

④班ごとの検討

6つの班に分かれ、「商店街のにぎわい」

「老後も安心して暮らせる」

「住民力・地域力を取り戻す」の3テーマで意見を交わし、その結果を模造紙にまとめ発表。

- 出席者 参加者27名、アドバイザー2名(役重、若菜)  
役員等13名(役員11名・オブザーバー、事務局2名)  
市側8名(テーブルファシリテーター役6名、ほか2名)

# 好地振り返りの経過④

## ▶ 第3回ワークショップ 2月23日(木)

- テーマ 好地地区の未来を考える・みんなの知恵出しワーク

「誰がどうする? わが地域のまちづくり」

～地域と行政、それぞれの役割を確かめよう～

- 内 容 ①前回の振り返り

- ②「好地を変える30の知恵!」の説明(役重アドバイザー)

第2回で参加者から出されたアイデアについて、「商店街のにぎわい・活力を作る好地」「老後も安心して暮らせる好地」「住民力・地域力を取り戻す好地」の3つのテーマごとに10項目ずつにまとめた内容を「30の知恵」とまとめたことを説明

- ③班ごとの検討

6つの班が、30の知恵をもとに「活動計画書」を作成し、その結果を模造紙にまとめ、発表し合う。

- 出席者 参加者26名、アドバイザー2名(役重、若菜)  
役員等13名(役員11名・オブザーバー、事務局2名)  
市側8名(テーブルファシリテーター役6名、ほか3名)

## 好地振り返りの経過⑤

### ▶ 好地地区まちづくり委員会役員との意見交換会 3月8日(水)

- 好地地区まちづくり委員会の役員に集まっていたき、3回にわたって実施したワークショップの内容を報告し、出されたアイデア等の活用策を検討した。  
3回のワークショップへの37人の出席状況・・・平均2.2回
- 後半は、好地地区まちづくり委員会の10年間の活動結果を踏まえた意見交換を行い、10年間の成果の再確認や地域づくり活動を進めるうえでの課題について検討した。
- 出席者 役員15名、事務局2名、本庁・支所地域支援室8名

# 好地を変える30の知恵！

## I. 商店街のにぎわい・活力を創る好地

- I-1 来店しやすい工夫（来店ポイント・見るだけバッジなど）
- I-2 体験型の商店（お菓子・染物など）
- I-3 富士大学や青雲高校生を巻き込んで活動の場をつくる
- I-4 イベントの工夫とPR（案内ガイド・紫波にもポスター・PR隊・観光大使・昔の町の風景など名物・名所づくり）
- I-5 「食」をテーマにイベント（葛丸川で釣り・野外BBQ・非常食を食べてみる会・アイデア料理の試食会など）
- I-6 土曜夜市の復活
- I-7 花火大会の充実・工夫（メッセージ花火・ミス花火など）
- I-8 イルミネーションのバージョンアップ
- I-9 参加型のまつり創り（全住民参加の盆踊り・老若男女のたるみこしなど）
- I-10 空き店舗の活用・リノベーション（高校生の出店・本屋・産直・カフェ・駄菓子屋・健康マーじゃん・昼飲み・高齢者が販売するなど）

## II. 老後も安心して暮らせる好地

- II-1 隣近所のコミュニケーション、声かけ
- II-2 交流の場をさらに広げる（男性も来るサロン・スポーツ・行政区でシニア体操など）
- II-3 高齢者の活躍の場を作る（行政区ごとに足当番・買物代行・移動ボランティアなど）
- II-4 有償ボランティアで生活支援のしくみ作り
- II-5 スノーバスターズ（除雪支援）
- II-6 粗大ごみなどの回収
- II-7 高齢者世帯の安心確認のしくみ作り（連絡先一覧表・独居世帯用の旗・ネット回線を利用した生存確認・）
- II-8 インターネットサロン（テレビ電話など）
- II-9 一人暮らし向け住宅として商店街の空き家を活用
- II-10 生活環境の整備（道路・下水道・街灯・空き家撤去・公共交通・医療・介護施設など）

## III. 住民力・地域力を取り戻す好地

- III-1 行事の重ね合わせ（町内会と子ども会、自治会どうしの合同イベントなど）
- III-2 地域外からの転入者との交流・意見交換会（参加のきっかけづくり）
- III-3 石鳥谷の歴史を知る会
- III-4 地区民運動会での住民交流（焼肉・かき氷など）
- III-5 住民参加の防災訓練（きっかけ作り）
- III-6 早起き大掃除（月1回）・挨拶運動など、住民総参加の行事
- III-7 グリーンツーリズムの本格始動
- III-8 婚活事業（ラットランドとの婚活イベントなども）
- III-9 若い世代の学びの場をつくる（NPOや行政による育成支援、役員・企画を任せてみる、順番制、役員数の見直しなど）
- III-10 コミュニティ会議と各種団体が一堂に会して地区を考える場を

身近な地域  
でできる  
こと

コミュニ  
ティ地区で  
取り組める  
こと

行政や  
民間の力が  
必要なこと

誰が始めるか？

誰を巻き込むか？

必要な支援は？

今回の見直しを受けて市の重点 ①人づくり ②縁づくり ③場づくり

## IV 東和地域

# 成島地区コミュニティ会議における 成果の振り返りと今後の取り組みについて 実施報告

花巻市東和総合支所地域振興課地域支援室

# 成島これまでの経過①

- ▶ **成島地区コミュニティ会議役員との検討会 11月28日（月）**
  - ワークショップの進め方を検討するため、参加者構成、グループ編成等を検討した。
  - コミュニティ会議活動を進めているうえで感じている課題等について意見交換をした。
  - 成島地区コミュニティ会議役員11名
  - アドバイザー（広田教授、若菜氏）
  - 市7名

## 成島これまでの経過②

### ▶ 第1回ワークショップ12月19日（月）

- ▶ ●テーマ 第1回どうすればできる？わが地域のまちづくり  
～10年をふり返り、新たな夢を描こう～

### ●内 容

#### 1. 情報提供

- (1) ワークショップの目的と進め方（役重アドバイザー）
- (2) 成島のこれまでの取り組みについて（成島地区コミュニティ会議  
菊池事務局長）

#### 2. 班ごとの検討

「20年後どんな地域になってほしいか」について班ごとに意見  
交換及び発表。

- 出席者：38名（参加者26名、アドバイザー1名、市職員11名）



# 成島これまでの経過③

- ▶ 第2回ワークショップ 1月23日(月)
- ▶ ●テーマ 第2回どうすればできる？わが地域のまちづくり
- ▶ ~夢に近づく手立てと課題を考えよう~

## ●内 容

1. 前回のふり返り
2. 情報提供(役重アドバイザー)
  - (1) 成島の「宝物」と「将来像」のキーワード
  - (2) 事例紹介
3. 班ごとの検討

班ごとに下記テーマで意見交換及び発表。

- A班…「地域の担い手を育てる」
- B班…「子どもの声が聞こえる！」
- C班…「ひとり暮らしや高齢者を孤立させない！」
- D班…「イベントの活性化」
- E班…「農地を荒らさない・景観を守る！」

- 出席者：38名(参加者27名、アドバイザー1名、市10名)

## 成島これまでの経過④

### ▶ 第3回ワークショップ 2月28日（火）

- ▶ ●テーマ 第3回どうすればできる？わが地域のまちづくり  
～地域と行政、それぞれの役割を確かめよう～

#### ●内 容

1. 前回のふり返り
2. 「成島を変える40の知恵」の説明（役重アドバイザー）
3. 班ごとの検討

「成島を変える40の知恵」から自分がやりたい事業、やれそうな事業を1人6つ選び事業の投票を行った。さらに、その中から班で話し合う事業を選び活動計画書を作成し発表。

- 出席者：32名（参加者22名、アドバイザー2名、市8名）

## 成島これまでの経過⑤

### ▶ 成島地区コミュニティ会議役員との意見交換会 3月13日（月）

- 3回にわたって開催したワークショップの内容と結果を説明し、ワークショップで出された5つの課題テーマについて役員から意見を伺った。
- 成島地区コミュニティ会議の10年間の活動の成果と課題等について意見交換を行った。
- 成島地区コミュニティ会議役員12名
- アドバイザー（役重氏）
- 市6名



# 成島を変える40の知恵！

## I. 成島を担う地元若手を育てる

- I-1 若い人をコミュニティの各部署につける
- I-2 講演や先進地視察など動機づけをする
- I-3 住民一人一人の興味や得意を聞き出し、人材お宝発見
- I-4 若い人材の集まる企画イベント（いきいきサロン若者バージョンなど）
- I-5 婚活（婚活サロン・イベント）
- I-6 草刈・雪かき応援隊の立ち上げ
- I-7 成島環境ボランティアの育成（和紙など地域の魅力説明、コーディネートできる）
- I-8 コミュニティ版ハローワーク、空き家の紹介（離職・育休中の若者へ農業体験等）

## II. 成島の子育てを応援する

- II-1 成島子供サロン（土日の居場所づくり、ボランティアの託児所）
- II-2 子どもの参加できる成島ならではのイベント（リンゴ狩りなど）
- II-3 子どもの無料送迎のしくみづくり
- II-4 成島らしいスポーツチームの育成
- II-5 子育てする移住者に住宅金、奨学金（定住すれば返還無用）
- II-6 子育て世代への経済的支援（助成金、教育費無料化）
- II-7 有名大学などの誘致

## III. 成島の交流の力で外の人を呼び込む

- III-1 大学生・高校生の農業・雪かきボランティア隊結成
- III-2 ターゲットを絞って移住誘致（田舎暮らし志向の子育て世代・泣き相撲参加者・地区外保育所入所者・市営住宅入居者など）
- III-3 IJUターン者発掘イベント
- III-4 移住のPR強化（SNS活用・移住者自によるアピール・農業広報の活用など）
- III-5 日本一の毘沙門パワーで受験に勝とう！プロジェクト
- III-6 毘沙門祭りに地場産品の出店
- III-7 空き家活用で移住、体験宿泊用施設に

## IV. 成島の農業の魅力を伝える

- IV-1 農作業体験ツアー、泣き相撲参加者の農家ステイ、1日体験など
- IV-2 ふるさと「農」税（農業体験者へ農産物等のプレゼント）
- IV-3 新規就農者の公募・受け入れ
- IV-4 地域で農業指導の体制づくり（自治会、部落でインストラクター育成）
- IV-5 地域全体で農業の法人化組織をつくる
- IV-6 農村景観づくり（桜並木の手入れ・田んぼアート・川治いに公園・棚田に戻すなど）
- IV-7 成島ならではの特産品を開発する（例：和紙のスマホケースなど成島グッズ）
- IV-8 常設産直をつくる！

## V. 成島のまとまりの良さで生涯現役

- V-1 小学校や保育園、子供会でお年寄りの講師（漬物作り・こびり作り・昔遊びなど）
- V-2 東和弁でシニアの寸劇公演
- V-3 体を動かす（体操・呼吸法・歌）
- V-4 いつでも学べる機会づくり（将棋・終活・包括支援）
- V-5 足の確保（いきいきサロンなど）
- V-6 男性が参加しやすい集い
- V-7 近所での声掛け運動
- V-8 月1回お出かけ温泉日和（湯のまちホット事業の活用）
- V-9 退職者などによる「成島塾」（勉強以外にも地域の技能、知恵など）
- V-10 「定年団」お助けチーム（草刈など）

誰が始めるか？



誰を巻き込むか？



必要な支援は？



地区内に声がけを！  
ニーズ調査を！  
若者チャレンジ枠を！

情報提供・発信を！  
他市の事例を！  
他地区と広域連携を！

〈例〉

【I-6+III-1+V-10】地元若手と学生サークルと定年帰住者の草刈り応援隊が共同作業&交流&大BBQ大会♪  
【I-3+IV-7+V-9】若者が地域のお年寄りにインタビューして、技能や知恵のお宝人材を発掘→「成島塾」「特産品づくり」などに活躍してもらう♪

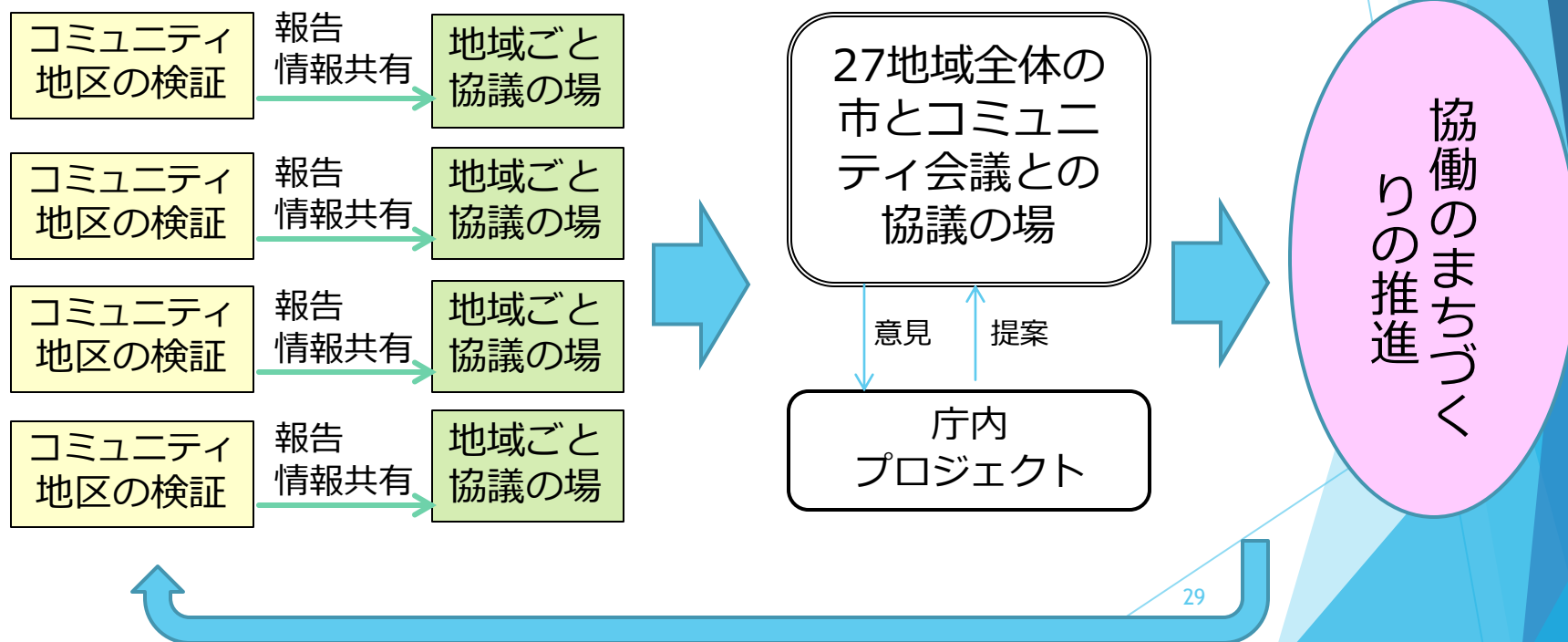
身近な地域  
でできる  
こと

コミュニ  
ティで取り  
組めること

行政や民間  
の力が必要  
なこと

# 今後の取り組みについて

今回の4地区だけではなく、29年度以降も引き続き「コミュニティ地区」でのワークショップを実施することとしています。



I 花巻地域「宮野目地区」における検討内容

1 開催スケジュール

回	検討の内容
第1回ワークショップ H28. 7. 20(水) 参加者 40 名	「コミュニティ会議の成果と課題」 コミュニティ会議の成果と課題を振り返る
第2回ワークショップ H28. 7. 26(火) 参加者 34 名	「コミュニティ会議の課題解決策の検討」 課題に対する解決策を検討（課題ごとに分かれて）
第3回ワークショップ H28. 11. 14(月) 参加者 21 名	「コミュニティ会議の今後の方向性の検討」 コミュニティ会議の今後の方向性をまとめる
役員との意見交換会 H28. 9. 14 (水) 参加役員 4 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2回のワークショップで出された課題解決策について</li> <li>・ 事務局の業務内容について</li> <li>・ 交付金交付額や手続きについて</li> <li>・ 市との協働・市への要望について</li> </ul>

※参加者はワークショップの参加者数。（事務局、アドバイザー等除く、他3地区も同じ）

2 ワークショップの開催結果

別紙のとおり。

3 宮野目地区における振り返りのまとめ

- (1)住民からの意見と役員の意見で共通に出された課題
  - コミの取り組みが住民に伝わっていないところがある。
  - 住民のニーズを把握する方法が弱い。
  - 特に若者にコミの活動に興味を持ってもらう周知が不足している。
  - 自治会など身近な組織でコミについて情報提供や話し合いの機会が必要
  - 役員の負担が大きい。役員のなり手がいない。
  - 区長会とコミの役割の違いが分かりにくい。
  - 今後のコミのあり方について方向性が定まっていない。
  - 行政とコミ、住民と協働の観点での地域づくりが必要。
  - 税収が減少する中で効率的な運営を目指す必要がある。
- (2)今後検討を要する事項
  - 住民ニーズの効果的な把握方法とニーズに対する事業化
  - コミの活動を発信する方法
  - 若者がコミの活動に参加するきっかけの作り方
  - 役員が負担にならずに意見を集約する方法
  - 役員の負担を減らすためにはどうするか
  - 役員の人材確保
  - 住民にとってわかりやすい組織にするために
  - 今後コミに求められる役割
  - 地域のためになる交付金のあり方

## 宮野目地区でのワークショップ開催結果（課題の分類ごとのまとめ1～4）

### 宮野目まとめ1 事業の見直しや周知

第1回目で出された課題	第2回目での解決策（○は複数意見）
1) 事業の改善や見直しが必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人の出会いの事業を</li> <li>・ウォーキングの時期を早めに</li> <li>・宮野目の魅力発見事業を</li> <li>・高齢化対策</li> <li>・みんなが集まれるイベントを</li> <li>○花いっぱい運動は見直しを 多年草が良い、宮野目の花を作る、花農が育てた花のPR/一鉢運動よりは花壇の整備</li> </ul>
2) 事業の周知やPRが不足している	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コミ便りの改善</li> <li>コミ便りの記事を募集、コミ便りに地域の問題を入れる/写真を大きく、レイアウトの工夫、子供が見たがるものを</li> </ul>
4) 事業が多すぎる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の数は適正だが、内容や担っている人に一部偏りがあるのでは</li> </ul>
<b>役員との意見交換</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の中にはすでに取り組んでいるものも多い。コミが何をしているかわからない人が多い。</li> <li>・一番心がけたのはコミのPR。小中学校や自治公民館で話をした。</li> <li>・コミの活動（実績）が地域（自治会）で報告されない。</li> <li>・自分たちのことを自分たちでやる仕組みはすごく良い。宮野目全体で地域の課題を挙げる仕組みがあるとよい。</li> <li>・行政区によっては自治会から役員を出して毎月コミの活動を全部報告しているところもある。</li> <li>・課題解決は自分たちでやれることが結構あり、市よりも安くできる。</li> <li>・身の回りの困っていること、不便なことを素早く解決できることがコミの良いところ。</li> <li>・以前はハード（道路）の割合が大きかったが道路（整備）はやめている。</li> </ul>	
<b>共通課題</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■コミの取り組みが住民に伝わっていないところがある。</li> <li>■住民のニーズを把握する方法が弱い。</li> </ul>	
<b>今後の要検討事項</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①住民ニーズの効果的な把握方法</li> <li>②ニーズに対する事業化</li> <li>③コミの活動を発信する方法</li> </ul> <p>※住民ニーズを事業化するための中間支援組織の支援や先進事例の情報収集が必要ではないか。</p>	

### 宮野目まとめ2 参加意欲向上や意見のまとめ方

第1回目で出された課題	第2回目での解決策（○は複数意見）
3) 地域や地域づくりに対する住民の意識や意欲が低い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区要望や意見の取りまとめ方の見直し</li> <li>・役員をやってもらう</li> <li>・先頭に立つ人が必要</li> <li>・意見交換の場を増やす</li> <li>・ロコミで経験・体験を伝える</li> <li>・人づくりの講演会、イベント開催</li> <li>・WEBでの情報発信</li> <li>SNSでの発信や、SNSの講習会実施</li> <li>・目を魅くコミ便り</li> <li>コミ便りの充実（何をやってるか広報）、チラシ的信息発信、マンガ好きなグループにお願いする</li> </ul>
5) 参加者が少ない、若い人の参加が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三世代交流</li> <li>・お年寄りの保健血圧測定</li> <li>・子供が楽しめるイベント</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰でも参加できる会を企画</li> <li>・若い人が声掛けして運動会やバレー大会など体協単位の楽しいイベント</li> <li>・小さい単位（自治会単位など）で活動を活発にする</li> <li>・目標を持てるような講座のタイトル</li> <li>・ふれあいサロンを社協と一緒に</li> <li>・参加しやすい事業 若い人が興味を持つ事業の実施 事業実施の際に保育コーナー設置 生涯学習講座のポイントカード 移住者の意見を聞く座談会 1つのテーマで、昼、夜、土日と3回 他コミとのスタッフネットワークづくり</li> <li>・子供たちを巻き込む事業 小中学生と世代間交流 中高生を集めて話合ってもらい大人たちが聞く</li> </ul>
9) コミュニティ会議の意義の周知が必要である	<ul style="list-style-type: none"> <li>○携帯を使った周知</li> <li>・コミのPR 各地区で簡単な説明会 自治会への出前講座 寸劇でグループ紹介 コミの説明会を定期開催 集落の総会でコミの事業報告</li> <li>・役員になってほしい 興味ある人のための役員の公募枠</li> <li>・開かれた総会 楽しい事業と同時開催 総会に傍聴席を設ける 会議参加は役員だけでなく当番制に</li> </ul>
10) 地域からの要望や意見のまとめ方を見直す必要がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生との話し合い</li> <li>・子供会役員をコミ役員に</li> <li>・行事後の雑談で意見収集</li> <li>・自治公民館。振セに意見箱</li> <li>・夜の集会は困難。記入できる体制に</li> <li>・役員の数を人口に対応</li> <li>・良い事業（盆踊りなど）、三世代交流（伝承）を続ける</li> <li>・要望の集め方 アンケートで意見を出しやすく 事業ごとにアンケートで振り返り 団体から意見を出すしくみづくり</li> </ul>
<b>役員との意見交換</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番心がけたのはコミのPR。小中学校や自治公民館で話をした。（再）</li> <li>・地域の総会ではコミに対する意見が出てこない。区長が拾うにも限界がある。</li> <li>・事務局に要望があっても扱いに困る。</li> <li>・地区要望について区長の考えで自治会役員まで、班までなど取扱が違うところがある。</li> <li>・要望した内容を引き継がないで役員が交代すると新役員が事業をわからないことがある。</li> <li>・地域に諮らずに区長だけで要望するところは今はない。</li> <li>・行政区によっては自治会から役員を出して毎月コミの活動を全部報告しているところもある。（再）</li> <li>・事業参加への勧誘は難しい</li> </ul>	
<b>共通課題</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■特に若者にコミの活動に興味を持ってもらう周知が不足している。</li> <li>■自治会など身近な組織でコミについて情報提供や話し合いの機会が必要。</li> </ul>	
<b>今後の要検討事項</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>①若者がコミの活動に参加するきっかけの作り方</li> <li>②役員が負担にならずに意見を集約する方法は</li> </ul> <p>※広報誌の活用など市として取り組むべきことはないか。</p>	



### 宮野目まとめ3 コミュニティ会議の体制と運営

第1回目で出された課題	第2回目での解決策
6) 他の組織との連携や役割分担がわからない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミの内容を地域に出向き説明</li> <li>・ 他の団体の事業の研究</li> <li>・ 部会等は細かく役割分担してダブらせない</li> </ul>
7) 役員の負担が大きく、なり手も限られる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区長は役員から外す</li> <li>・ 一般の方に参加する機会の提供</li> <li>・ 役員の選挙をする</li> <li>・ 懇親会は準備から片付けまで業者に</li> </ul>
8) 組織体制の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肩書のない人も総会に参加する</li> <li>・ 各集落から1人は役員になる</li> <li>・ 役員の数を見直す</li> <li>・ 役員の数を減らす</li> </ul>
11) 事業や運営の無駄のチェックや改善が必要である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予算の細かいところ（途中経過）まで公開</li> <li>・ 事業内容をもっと住民にPR</li> <li>・ 事業を複数コミでまとめて発注</li> <li>・ 役員が地域に出向き説明する</li> <li>・ 物品購入は写真も提示する</li> </ul>
<b>役員との意見交換</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 役員を増やすと地区で選出が大変。</li> <li>・ 自分たちのことを自分たちでやる仕組みはすごく良い。宮野目全体で地域の課題を挙げる仕組みがあるとよい。(再)</li> <li>・ コミには各団体から課題や要望が来るが、役員や常任委員レベルで共有しても地域の総会などで情報を伝える場がない。</li> <li>・ 役員が家に帰って「コミの役員は大変」というと家族から「役員は大変」という話が周囲に伝わる。</li> <li>・ 役員のお願いに上がっても家族に反対される。</li> <li>・ 事務局は証明書の発行がなくなって負担が軽減された。</li> <li>・ 要望した内容を引き継がないで役員が交代すると新役員が事業をわからないことがある。(再)</li> <li>・ 行政区の常任委員を複数にして役員が交代しても要望内容が引き継がれるように変えている。</li> <li>・ 婦人会やいろんな団体があっても役員が同じ人になって、負担が増える。</li> <li>・ 複数の団体の役員をやっている場合は、兼務ではなく団体ごとに別な人を出すようにしている。</li> </ul> <p>(若菜アドバイザー) ※WSの参加者は役員になる前の年代が多く、その年代にどう伝えるのかという課題かもしれない。</p>	
<b>共通課題</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 役員の負担が大きい。</li> <li>■ 役員のなり手がいない。</li> <li>■ 区長会とコミの役割の違いが分かりにくい。</li> </ul>	
<b>今後の要検討事項</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 役員の負担を減らすためにはどうするか</li> <li>② 役員の人材確保</li> <li>③ 住民にとってわかりやすい組織にするために</li> </ul> <p>※アドバイザーの活用や、他のコミュニティ会議との連携により解決できることはないか。</p> <p>※事業の執行や会計処理などで住民への情報提供は適切か。</p>	

## 宮野目まとめ4 市との連携・市のサポート

第1回目で出された課題	第2回目での解決策
12) コミュニティ会議と市の役割分担がわかりづらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算執行の基準を市民に周知（どの程度はコミで工事か）</li> <li>・なぜコミ会議をやっているのかももう一度市民、行政で確認すべき</li> <li>・コミへの要望はその結果と経緯を要望者に返す（市かコミか理解することで周知つながる）</li> <li>・どういう状態がゴールなのか認識を合わせる</li> <li>・市かコミか区長に判断してもらう（窓口を区長に）</li> <li>・自治会会報でコミの事業実績を報告</li> </ul>
13) 行政の支援やサポートが必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営のノウハウのセミナーや講座が必要</li> <li>・他の成功例や地域を知る機会が必要</li> <li>・市職員でないNPOなどが市の予算で支援に入るべき</li> <li>・各コミの活動を常設で展示</li> <li>・定期的な市の支援</li> <li>・地域運営に市民が関わる必要性を行政及び市民が理解する</li> </ul>
14) 交付金のあり方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域でできることは地域で</li> <li>・予算を繰り越しできるように</li> <li>・定額交付ではなく一部事業をコンペ方式で</li> <li>・新規のソフト事業に充てる</li> <li>・市広報、コミの広報活用でわかりやすくPR</li> </ul>
15) コミュニティ会議という市の事業の狙いと効果の検証が必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用対効果を強く言わない</li> </ul>
<b>役員との意見交換</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかのコミで「市から丸投げされている」という話もあるが宮野目はそうではない。身近な課題を自分たちで解決できるのはよいこと。</li> <li>・課題解決は自分たちでやれることが結構あり、市よりも安くできる。（再）</li> <li>・ボランティア団体で解決していることも結構ある。</li> <li>・事業費の繰り越しはあったほうがよい。</li> <li>・繰り越しは多額になるとおかしくなる。少額に限るべき。</li> <li>・交付金は、より多くあることに越したことはない。要望よりもみんな削っている。</li> <li>・防犯カメラ設置は行政かコミか。管理方法など検討が必要。道路であれば土木要望に合わせて要望する。</li> <li>・道路の整備は平等一律ではなくて要望に応じて差があってもよいのでは（道路要望？）</li> <li>・弁当は各世帯からの拠出金で支出していたので弁当をやめて拠出金を減らした。地域づくり交付金をあてても良いということで今後検討する。</li> <li>・もう少し交付金はもう少しあればよい。手続きは問題なし。</li> <li>・宮野目の交付金が増えればどこかが減ってしまう。</li> <li>・担当（支援室職員）は週に1回以上訪問する。</li> <li>・交付金の使い方についてチェックしてもらわないといけいない。</li> <li>・施設管理では除雪が大変。</li> <li>・研修の機会はある</li> <li>・他のコミの様子は会議の場では出てこないが懇親会をやると出てくる。</li> </ul> <p>（市）※総額2億円を増やすことはできない。</p>	
<b>共通課題</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■今後のコミのあり方について方向性が定まっていない。</li> <li>■行政とコミ、住民と協働の観点での地域づくりが必要。</li> <li>■税収が減少する中で効率的な運営を目指す必要がある。</li> </ul>	
<b>今後の要検討事項</b>	
<p>①今後コミに求められる役割</p> <p>②地域のためになる交付金のあり方</p> <p>※高齢化や人口減少の中で地域のコミに求められる役割は変わってくる。</p> <p>※税収が減少する中で効果的な交付金の使い方や、交付金の適正な水準について検討が必要。</p>	

## II 大迫地域「外川目地区」における検討内容

### 1 開催スケジュール

日 時	検討の内容
第1回ワークショップ H29. 1. 17(火) 参加者 18名	目的：どこまで進んだ？わが地域のまちづくり ～10年をふり返り、新たな夢を描こう～ ①情報の見える化 ～外川目地区の人口と高齢化率を知る～ ②各自、付箋に新たな20年に向けた夢や課題を書く。 ③模造紙に貼りながら、意見を出しあう。 ④意見を整理して、テーマを考える。
第2回ワークショップ H29. 2. 15(水) 参加者 21名	目的：どうすればできる？わが地域のまちづくり ～夢に近づく手だてと課題を考えよう～ ①情報提供 ～解決策のヒント～ ②第1回で出された地域の将来像(夢)をどうすれば実現できるか、課題や必要な支援、活動案などを付箋に書いて貼る。(何を見直したらいいか) ③出された意見をもとに話し合い、課題ごとに整理する。
第3回ワークショップ H29. 3. 7(火) 参加者 22名	目的：誰がどうする？わが地域のまちづくり ～地域と行政、それぞれの役割を確かめよう～ ①活動案を「だれがやれるか」で分類する。 (班や集落でやれること、コミュニティ地区で考えるべきこと、行政が見直すべきこと…の分類) ②それらの中の優先度を整理し、来年度以降に反映できることを考える。
役員との意見交換会 H29. 3. 15(水) 役員他出席 15名	・コミュニティ会議の10年間の取り組みで「成果」と思うこと ・コミュニティ会議の活動を進める上で感じている問題や課題について ・地域づくり交付金について ・市との協働について聞き取り

### 2 ワークショップの開催結果

別紙のとおり。

### 3 外川目地区における振り返りのまとめ

#### (1) 共通事項

ワークショップにおける提案の実現

行事の多過ぎ

地産地消の推進

古民家の活用

自然を守り活かす

郷土芸能の伝承と活用

#### (2) 検討事項

行事の整理

各種団体との連携

コミ役員に対し付随してくる役職の整理

コーディネーターを担う人材の発掘

明るく活動できる工夫

## 外川目地区でのワークショップ開始結果（事業検討テーマごとのまとめ1～3）

### 外川目まとめ1 子育て世代が住み続けられる

検討すべきキーワード	キーワードへの解決策
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校や中学校で夢のある教育を行い、よそから入ってもらうようにする</li> <li>・学区を再編し近隣市町村にとどまるようにする</li> <li>・学費を安くする</li> <li>・小学校の遠足は地域内で行い、（自然中で）焼き肉などを行う</li> <li>・自然をテーマとする大学（学部）の誘致</li> <li>・大学生の研究の場に活用してもらう</li> </ul>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育費をもう少し安くする</li> <li>・子育てに関する助成金の支給</li> <li>・学費のかからない地区にする</li> <li>・生活費がかからない地域をつくる</li> </ul>
若者対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が定住するために仕事（雇用）を創出する</li> <li>・商業施設を誘致する（レジャー施設）</li> </ul>
生活条件の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光ケーブルを入れる</li> <li>・交通アクセスの利便性確保</li> <li>・携帯電話がどこでも使えるようにすれば若い人が残る</li> <li>・道路の幅を広くする</li> <li>・教育、医療、仕事など生活に不安を感じさせない生活基盤の整備</li> <li>・不安なく出産できるよう医療機関を整備</li> <li>・医療費の無料化</li> </ul>
<b>外川目を変える10の知恵（キーワード）</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小中学校で夢のある教育をする</li> <li>2. 遠足などは地域の自然の中で（焼肉など）</li> <li>3. 「自然」テーマに大学の誘致</li> <li>4. 子育て世代へ空き家貸出しプロジェクト（移住者への優遇措置等）</li> <li>5. 大学生との連携（研究の場に活用）</li> <li>6. 田舎志向の若者と体験交流イベント（体験内容の充実、定例イベント化、参加者へのフォロー、中山間の魅力PR）</li> <li>7. 通信環境の整備（光ケーブル、携帯電話）</li> <li>8. 公共基盤（道路、医療機関、交通など）</li> <li>9. 教育環境（学費・医療費助成、学区再編）</li> <li>10. 商業施設等の誘致</li> </ol>	
<b>役員との意見交換</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミは、外川目全体のビジョンを進めること。外川目一本の目標を持てれば良いと思う。</li> <li>・WSは意見を出し合うきっかけは良かった。ひとつでも実現したり、目出しができたたりできればいい。ただ、ビジョンとの兼ね合いを考えてもらえれば。</li> <li>・夜の集まり（会議）への出席は辛い。</li> </ul>	

## 外川目まとめ2 外から人が集まる

検討すべきキーワード	キーワードへの解決策
住む環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家が多くなるのでみんなでそこに住めるようにする</li> <li>・地元病院に外科医を常駐させ診療機能を充実する</li> <li>・高校を充実し安心して学べるようにする</li> <li>・古民家の活用</li> <li>・無料施設を多くする</li> <li>・道路、交通環境を良くする</li> </ul>
農作業体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーンツーリズム受け入れの拡大を図る</li> <li>・集落に集中した活動モデルを作る</li> <li>・ぶどう栽培に定年後の人材を活用する</li> <li>・短期滞在型の農業体験を宣伝</li> <li>・農業女子を連れてくる</li> <li>・果物のあるまちづくりを進める（ぶどう、りんご）</li> <li>・安心して泊まれる宿</li> </ul>
ツアーの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八木巻神楽の鑑賞ツアーを実施</li> <li>・この地区でしか見られない芸能をPR</li> <li>・郷土食が常に食べられる場の設定</li> <li>・神楽鑑賞と併せて春夏秋冬の味覚ツアーを開催</li> <li>・ワラビ園を整備し、ツアーにより誘客</li> <li>・釣り客を迎えるため河川の草刈りを行う</li> <li>・山菜の宝庫であることを活かし加工販売する</li> <li>・自然探訪をテーマに外川目の自然美を大いにPRする</li> </ul>
自然環境を生かす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落にある史跡、湧水を巡る歩道を整備</li> </ul>
<b>外川目を変える10の知恵（キーワード）</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外川目マラソンの開催</li> <li>2. 八木巻神楽鑑賞ツアー（春夏秋冬の味覚ツアーと併せて）</li> <li>3. 自然探訪ツアー（ワラビ採り・釣りツアー、そのためのワラビ園や河川敷の整備など）</li> <li>4. 古民家活用（都会から退職者受入れなど）</li> <li>5. 安心して泊まれる宿の整備</li> <li>6. グリーンツーリズムの受入拡大（短期滞在の活動モデル作り等）</li> <li>7. 史跡や湧水をめぐる遊歩道の整備</li> <li>8. ぶどう栽培に定年後の人材活用</li> <li>9. フルーツ・ツーリズムのまち</li> <li>10. 「来たれ！農業女子」プロジェクト</li> </ol>	
<b>役員との意見交換</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミが負担というより、各種団体への所属（役員に自動的ななってしまう）することが負担に思った。それを何とかしないと若い人は入ってこない。</li> <li>・若い人をどのように参加してもらうかを考えていかなければならないと思う。</li> <li>・交付金算定については、外川目地域は面積が広いので、まだまだインフラ整備や公民館関係助成に多く使いたいで、配慮していただきたい。</li> <li>・公民館では、コミからいただくお金があるので助かっている。</li> <li>・芸能団体は6つあるが、若い人がいないので、尻すぼみになった感じがある。何とかしたいので、意見を賜りコミで吸い上げて欲しい。</li> </ul>	

### 外川目まとめ3 農業と自然を守り、残す

検討すべきキーワード	キーワードへの解決策
農作業体験・グリーンツーリズム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集落内に集中して農作業体験の活動モデルを作る</li> <li>・農地の無料貸し出しやグリーンツーリズム受け入れの拡大を図る</li> <li>・田舎お試し居住1ヶ月や短期滞在型の農業体験を宣伝</li> <li>・農業女子を連れてくる</li> <li>・ぶどう栽培に定年後の人材を活用する</li> <li>・果物のあるまちづくりを進める（ぶどう、りんご）</li> <li>・農業アドバイザーを招いて指導を受ける</li> <li>・畑づくりや土づくりの勉強会を開催する</li> <li>・土地のオーナー制度による農業経営を実現</li> <li>・草刈りアートや雪アートを実施</li> </ul>
インフラ整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して泊まれる宿を整備</li> <li>・ワラビ園を整備</li> <li>・釣り客を迎えるため河川の草刈りを実施</li> <li>・集落にある史跡や湧水を巡る歩道を整備</li> <li>・鹿肉を提供できる店を開設</li> <li>・工房を地域につくり特産品の研究を検討する場を設ける</li> <li>・野菜工場の整備</li> <li>・ミニ水車で粉挽きや発電を実施</li> <li>・地産地消レストランまたはカフェを開設する</li> <li>・古民家を農家レストランにして郷土料理を提供</li> </ul>
食の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イタリアン料理専門の野菜を栽培</li> <li>・料理上手のお母さんたちから地元食材を利用した食を学ぶ料理教室から農家レストランへつなげる</li> <li>・郷土料理を発掘（復活）し、・コミュニティが経営する「農家レストラン」「地産地消レストラン」「飲み屋」「喫茶店」を開く</li> <li>・山野草、キノコ、山菜をネット販売、川魚料理を紹介し川魚を売る</li> <li>・山菜を守り、山菜のびん詰を多くの人に食べてもらい外川目を知ってもらう</li> <li>・鹿肉を提供できる店を開設</li> <li>・クマやシカを使った料理を提供する</li> </ul>
<b>外川目を変える10の知恵（キーワード）</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 草刈りアート・雪アート</li> <li>2. ミニ水車の活用（流しそうめん大会、粉ひき、小発電など）</li> <li>3. スターウォッチング、デートスポット・パワースポット等の場所づくりとイベント開催</li> <li>4. 名水マップ整備、名水めぐりのウォーキング大会（ホテル）</li> <li>5. 農業アドバイザー、野菜ソムリエを招いて土づくり、畑づくりの勉強会</li> <li>6. 農地のオーナー制、無料レンタル</li> <li>7. 民泊で農業体験・ストレス発散草刈りツアー、1か月のお試し居住</li> <li>8. 山の恵みの特産品化とネット販売（工房を作り山野菜加工、キノコ、川魚、イタリアン野菜）</li> <li>9. 農家（古民家）レストラン・地産地消カフェの開店（郷土料理、料理教室、ジビエ料理、そば・ひつつみ、かま焼き）</li> <li>10. 農業法人化、事務員の雇用（年商1000万）、米で難民救済</li> </ol>	
<b>役員との意見交換</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体の合同活動について、検討する時期が来ているのではないか。農地水などの地域団体でのことも含め、みんなで考えていかなければならない。</li> <li>・梅の里事業は現在、別団体として「外川目地区梅の里協議会」を作り事業承継している。</li> </ul>	

## 外川目まとめ4 レジェンド(高齢者)活躍の外川目

検討すべきキーワード	キーワードへの解決策
スキルの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔のモノを作って販売（わらじ、なわ、かすり）</li> <li>・できることをやってもらい収入を得る</li> <li>・待機児童を対象に子どもの世話を行う</li> <li>・大工技能や農業技術を活かす</li> <li>・若者への支援や指導</li> <li>・元気な高齢者が困っている高齢者を助ける</li> </ul>
条件整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・免許返納者にタクシー割引券を交付する</li> <li>・有償による自家用車での送迎</li> <li>・運転ができなくなるため地域専用バスを用意する</li> <li>・移動販売車に来てもらう</li> <li>・無料バスによる買い物ができるようにする</li> <li>・娯楽施設の整備</li> <li>・病院をなくさない</li> </ul>
集う機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事が一段落したら、お茶飲み会をしてゆとりの時間を設ける</li> <li>・カラオケやお茶会を開催する</li> <li>・年に4～5回はイベントなどに連れていく</li> <li>・高齢者同士の旅行会の開催</li> <li>・集まって体操をする（元気でまっせ体操）</li> <li>・老人クラブでのスポーツする機会を増やす</li> </ul>
<b>外川目を変える10の知恵（キーワード）</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 伝統技術でモノづくり・販売（わらじ・縄・緋など）</li> <li>2. 大工や農業などの技能で収入を得る</li> <li>3. 待機児童など子どもの面倒を見る</li> <li>4. 若者の支援・指導、高齢者どうしの支援</li> <li>5. 自家用車での有償運送</li> <li>6. 移動販売車、無料バスなど足の確保</li> <li>7. 免許返納者にタクシー割引券の交付</li> <li>8. カラオケ、お茶会、旅行などの定期開催</li> <li>9. 元気でまっせ体操、老人クラブでスポーツ</li> <li>10. 娯楽施設、医療施設</li> </ol>	
<b>役員との意見交換</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ免許返納しようかと？という時期に役が回ってくる。</li> <li>・これから役員になるのは、高齢者が多い。</li> <li>・役員になると先に立たなければならない。人を集めたりするための声掛けが大変。</li> <li>・WSは若い人の考えがあれば良い。</li> <li>・コミュニティ会議より、公民館への方が人は集まりやすい。</li> <li>・各種団体を統括する人がいれば、もっと地域を考えることができると思う。</li> <li>・行事があまりにも多い。</li> <li>・順番に役が来るが、歳を取ってから役員になるので大変。</li> <li>・ボランティアでただ働では疲労感も違ってくる。</li> </ul>	

### Ⅲ 石鳥谷地域「好地地区」における検討内容

#### 1 開催スケジュール

日 時	検討の内容
第1回ワークショップ H28. 12. 20(火) 参加者 28名	目的：どこまで進んだ？わが地域のまちづくり ～10年をふり返り、新たな夢を描こう～ ①情報の見える化 ～好地地区の人口と高齢化率を知る～ ②各自、付箋に新たな20年に向けた夢や課題を書く。 ③模造紙に貼りながら、意見を出しあう。 ④意見を整理して、テーマを考える。
第2回ワークショップ H29. 1. 25(水) 参加者 27名	目的：どうすればできる？わが地域のまちづくり ～夢に近づく手だてと課題を考えよう～ ①情報提供 ～好地地区まちづくり委員会の10年間の歩み～ ～地域自治の最先端～ ②第1回で出された地域の将来像(夢)をどうすれば実現できるか、課題や必要な支援、活動案などを付箋に書いて貼る。(何を見直したらいいか) ③出された意見をもとに話し合い、課題ごとに整理する。
第3回ワークショップ H29. 2. 23(木) 参加者 26名	目的：誰がどうする？わが地域のまちづくり ～地域と行政、それぞれの役割を確かめよう～ ①活動案を「だれがやれるか」で分類する。 (班や集落でやれること、コミュニティ地区で考えるべきこと、行政が見直すべきこと…の分類) ②それらの中の優先度を整理し、来年度以降に反映できることを考える。
役員との意見交換会 H29. 3. 8(水) 参加役員 15名	・コミュニティ会議の10年間の取り組みで「成果」と思うこと ・コミュニティ会議の活動を進める上で感じている問題や課題について ・地域づくり交付金について ・市との協働について について聞き取り

#### 2 ワークショップの開催結果

別紙のとおり。

#### 3 好地地区における振り返りのまとめ

##### (1) 共通事項

人材確保、担い手確保  
地域全体の力、地域力を高める必要性  
高齢者が安心して生活できる地域づくり  
自治公民館や町内会などの小エリアでの地域活動の活性化  
みんなが参加して行う仕組みづくり

##### (2) 今後の要検討事項

他の地域での優良事例の把握方法  
地域づくりに関する各種団体との活動内容の棲み分けの方法  
地域住民からの要望をどのようにまとめ、その結果をどのように選別分担するか  
コミュニティ会議事業の地域住民への周知  
若い人の意見を聴取する方法



## 好地地区でのワークショップ開始結果（事業検討テーマごとのまとめ1～3）

### 好地まとめ1 商店街のにぎわい

検討すべきキーワード	キーワードへの解決策
1) イベント（つどい）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イルミネーションの継続（大きく）</li> <li>・石鳥谷まつりの継続（大きく）</li> <li>・桜まつりの開催</li> <li>・蔵まつり（四季ごと）の開催</li> <li>・花火の継続</li> <li>・よ市の復活</li> </ul>
2) 商店（街）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き店舗の活用</li> <li>・「ぷらっと」や「酒蔵交流館」の活用</li> <li>・喫茶店、本屋、駄菓子屋の設置</li> <li>・入りやすい環境</li> <li>・居酒屋、食堂がある</li> </ul>
3) その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・案内人、ボランティア</li> <li>・名物づくり</li> <li>・運動会</li> <li>・商店街を「エアーライン商店街」と名称化する</li> </ul>
<b>好地を変える10の知恵（キーワード）</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 来店しやすい工夫（来店ポイント・見るだけバッジなど）③</li> <li>2. 体験型の商店（お菓子・染物など）④</li> <li>3. 富士大学や青雲高校生を巻き込んで活動の場を設ける①</li> <li>4. イベントの工夫とPR（案内ガイド・紫波にもポスター、PR隊・観光大使・昔の町の風景など名物・名所づくり）①</li> <li>5. 「食」をテーマにイベント（葛丸川で釣り・野外BBQ・非常食を食べてみる会・アイデア料理の試食会など）④</li> <li>6. 土曜夜市の復活</li> <li>7. 花火大会の充実・工夫（メッセージ花火・ミス花火など）②</li> <li>8. イルミネーションのバージョンアップ④</li> <li>9. 参加型のまつり創り（全住民参加の盆踊り・老若男女のたるみこしなど）④</li> <li>10. 空き店舗の活用・リノベーション（高校生の出店・本屋・産直・カフェ・駄菓子屋・健康マージャン・昼飲み・高齢者が販売するなど）⑦</li> </ol>	
<b>役員との意見交換</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興部会としては、WSが事業推進のために非常に参考になった。実際、WSで提案のあった「桜まつり」は今春実施予定であり、今後の事業には、出店、出演、スタッフもなんでもいからかかわらせていきたい。</li> <li>・女子高生の参加など、若い人をどんどん参加させることにより、商店街の問題解決につながると思うので、今後の事業にはそのことに留意していきたい。</li> <li>・産業振興部会は関係イベントに結構予算を使っているがにぎわいにつなげるには程遠いと感じているので、今回のWSでの成果を活かしていくべきだと思う。</li> <li>・高齢者の出番を作ったり、高齢者と若い人の距離を縮めたり</li> <li>・イベントなどの事業推進のためにはPRの仕方も検討しなければいけないが、心に響くPRであれば、行きたい参加してみたい人が増えると思う。</li> <li>・イベントは盛会裏に終わっているが、課題は地元の方の出店が少ないのもある。継続的なイベントとするためにも、周知だけでなく、イベントに関係する方々をどう活用するかが重要。</li> <li>・地元には花北青雲高校もあり、地域の若い人たちに参加してもらうことが重要だと思う。</li> <li>・わくわくするイベント事業は続くので、これからは、このことも考えていきたい。</li> </ul>	

## 好地まとめ2 老後も安心して暮らせる

検討すべきキーワード	キーワードへの解決策
1) つどい (つながり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットサロン</li> <li>・集える場の設置</li> <li>・世代間交流の実施</li> <li>・老人の活躍の場の確保</li> </ul>
2) 住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合病院の設置</li> <li>・買い物に不自由しないように</li> <li>・街灯の整備</li> <li>・町内循環バスの運行</li> <li>・粗大ごみの回収実施</li> <li>・スポーツ (体操) の場の充実</li> </ul>
3) 見守り (支援)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買物代行</li> <li>・店の雰囲気改善</li> <li>・路上駐車をなくす</li> </ul>
4) その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし老人対策 (声かけの取り組み、連絡体制整備)</li> <li>・近隣が仲良く</li> <li>・連絡先一覧表の作成</li> </ul>
<b>好地を変える10の知恵 (キーワード)</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 隣近所のコミュニケーション、声かけ①</li> <li>2. 交流の場をさらに広げる (男性も来るサロン・スポーツ・行政区でシニア体操など) ②</li> <li>3. 高齢者の活躍の場を作る (行政区ごとの足当番・買物代行・移動ボランティアなど) ⑥</li> <li>4. 有償ボランティアで生活支援のしくみ作り②</li> <li>5. スノーバスターズ (除雪支援)</li> <li>6. 粗大ごみなどの回収②</li> <li>7. 高齢者世帯の安心確認のしくみ作り (連絡一覧表・独居世帯用旗・ネット回線を利用した生存確認) ⑥</li> <li>8. インターネットサロン (テレビ電話など)</li> <li>9. 一人暮らし向け住宅として商店街の空き家を活用②</li> <li>10. 生活環境の整備 (道路・下水道・街灯・空き家対策・公共交通・医療・介護施設など) ⑥</li> </ol>	
<b>役員との意見交換</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば、近く (商店街) にすぐ使える車いすがあって若い人が後ろから押してくれるようなまちづくりを行わなければならないと感じる。</li> <li>・好地地区は比較的新しく住民になった方が多い地域であるので、住んで1～2年の方々への人のつながりづくりをすることで、顔見知りとなり、安心につながると思う。</li> <li>・WSでのキーワードで不足がある点が、「健康を自分で保って維持していくこと」と「予防的なこととして健康を維持すること」。これにも留意した活動が必要であると思う。</li> <li>・WSでは、「街中はベビーカーをおしてもガタガタで、赤ちゃんにもお年寄りに大変」ということが話題になったと聞く。そういうところに配慮したやさしい街であればいいと思うので、コミでも実現に向けた活動をしてほしいと思う。</li> <li>・地域内には何か所かの公園があるが、あまり活用されていない。どんな形でもいいので、街に出たくなるきっかけをつくり、もっと街中に出ましょと声掛けをしてはどうかと思う。</li> <li>・ある方の講演で、「幸福とは、社会に出て人のためになり、そしてその行為が感謝されると生まれる」という話をきいた。そんなことも考え地域づくりを進めなければならないと思う。</li> </ul>	

### 好地まとめ3 住民力・地域力を取り戻す

検討すべきキーワード	キーワードへの解決策
1) イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史を知る</li> <li>・まつりに参加する</li> <li>・若者向けのイベントの開催</li> <li>・アイデア料理の募集</li> <li>・三世代交流</li> <li>・複数の自治会で合同開催</li> <li>・みんなが参加できるイベント</li> </ul>
2) 人材育成（確保）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政などの支援</li> <li>・若い人の活用</li> <li>・適材適所</li> <li>・子どもや若い人の能力の発掘</li> </ul>
3) つながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転入者の声を聴く</li> <li>・あいさつ運動の実施</li> <li>・サロンの実施</li> <li>・防災訓練で地域のつながりを持つ（確認する）</li> <li>・イベントを行った後の交流実施</li> </ul>
<b>好地を変える10の知恵（キーワード）</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行事の重ね合わせ（町内会と子ども会、自治公民館どうしの合同イベントなど）④</li> <li>2. 地域外からの転入者との交流・意見交換会（参加のきっかけづくり）</li> <li>3. 石鳥谷の歴史を知る会①</li> <li>4. 地区民運動会での住民交流（焼肉・かき氷など）⑥</li> <li>5. 住民参加の防災訓練（きっかけづくり）④</li> <li>6. 早起き大掃除（月1回）・挨拶運動など住民総参加の行事</li> <li>7. グリーンツーリズムの本格始動</li> <li>8. 婚活事業（ラットランドとの婚活イベントなども）①</li> <li>9. 若い世代の学びの場を作る（NPOや行政による育成支援、役員・企画を任せてみる、順番性、役員数の見直しなど）①</li> <li>10. コミュニティ会議と各種団体が一堂に会して地区を考える場を①</li> </ol>	
<b>役員との意見交換</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のWSを視察したが、多くの参加者が熱心に話し合いをしていた。こういう方々の活用を考え、一緒にまちづくりを進めたいと感じた。</li> <li>・自分で気がつかないことを気がつくことが、地域づくりの1歩だと思う。</li> <li>・何をやるにしても、安心・安全につながる見守り隊が必要で、これは住民力・地域力だと思う。</li> <li>・地域活動を行うにあたり、住民力・地域力を取り戻すことに頭を痛めている。行事を行う際にもやってきたことを改めるようになども考えているが、地域のみなさんと絆を深めるためにも、自治公民館などの地域活動は深めていかなければならないと思う。</li> </ul>	

## IV 東和地域「成島地区」における検討内容

### 1 開催スケジュール

日時	検討の内容
第1回ワークショップ H28.12.19(月) 参加者 26名	目的：どこまで進んだ？わが地域のまちづくり ～10年をふり返り、新たな夢を描こう～ ①情報の見える化 ～成島地区の人口と高齢化率を知る～ ②各自、付箋に新たな20年に向けた夢や課題を書く。 ③模造紙に貼りながら、意見を出しあう。 ④意見を整理して、テーマを考える。
第2回ワークショップ H29.1.23(月) 参加者 27名	目的：どうすればできる？わが地域のまちづくり ～夢に近づく手だてと課題を考えよう～ ①情報提供 ～地域自治の最先端～ ②第1回で出された地域の将来像(夢)をどうすれば実現できるか、課題や必要な支援、活動案などを付箋に書いて貼る。(何を見直したらいいか) ③出された意見をもとに話し合い、課題ごとに整理する。
第3回ワークショップ H29.2.28(火) 参加者 22名	目的：誰がどうする？わが地域のまちづくり ～地域と行政、それぞれの役割を確かめよう～ ①活動案を「だれがやれるか」で分類する。 (班や集落でやれること、コミュニティ地区で考えるべきこと、行政が見直すべきこと…の分類) ②それらの中の優先度を整理し、来年度以降に反映できることを考える。
役員との意見交換会 H29.3.8(水) 参加役員、住民 12名	・コミュニティ会議の10年間の取り組みで「成果」と思うこと ・コミュニティ会議の活動を進める上で感じている問題や課題について ・地域づくり交付金について ・市との協働について について聞き取り

### 2 ワークショップの開催結果

別紙のとおり。

### 3 成島地区における振り返りのまとめ

#### (1) 共通事項

ワークショップで出されたお宝(地域の資源)の活用

事業内容も充実し、参加者も満足している。今後は人集めが課題

お世話係としてボランティアで活動している方への支援も課題

役員等、皆仕方なくやらされ感がある

仕事中心の若い人材の集まる企画の実施

退職者などの地域人材の活用(成島塾での地域の技能・知恵の活用、ボランティアとしての活躍)

毘沙門や成島和紙など成島地区ならではの地域資源の活用とPR

#### (2) 検討事項

ワークショップで出された意見を実現するための特別予算など支援策

ハード事業とソフト事業の望ましいバランス

交付金の使途について(ボランティアへの謝金等への支出)

役員のやらされ感の払しょく

## 成島地区でのワークショップ開始結果（事業検討テーマごとのまとめ1～5）

### 成島まとめ1 地域の担い手を育てる

検討すべきキーワード	キーワードへの解決策
1) 人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティの各部署にもっと若い人をいれる</li> <li>・地域で活躍できる場、還元できる方法を工夫する</li> <li>・担い手支援の強化。また評価する機会を作る</li> <li>・技能等の伝承をするサイクルを作り研修機会を設ける</li> <li>・年配の人の知識や技術を若い人や子供達に伝える機会を作る</li> <li>・講演や先進地視察といった動機付けを工夫する</li> <li>・育児休業中の人に農業体験(子連れ OK、2時間程度)</li> </ul>
2) イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬休みに雪かき体験ツアーなど(小学生家族など)</li> <li>・大学生、高校生の長期休みに農業、雪かきボランティア</li> <li>・農業体験者へ農産物のプレゼント(ふるさと納税みたいに)をする</li> <li>・地元での婚活につながるイベントを行う</li> <li>・いきいきサロンの様な事業を、若い人向けに何かやってみる</li> <li>・空き家活用により移住者を呼びこむ</li> <li>・田舎暮らし志向の子育て世代にターゲットをしばり魅力をアピール</li> </ul>

#### 成島を変える8の知恵（キーワード）

1. 若い人をコミュニティの各部署につける①
2. 講演や先進地視察など動機づけをする①
3. 住民一人一人の興味や得意を引き出し、人材お宝発見⑤
4. 若い人材の集まる企画イベント（いきいきサロン若者バージョンなど）④
5. 婚活（婚活サロン・イベント②
6. 草刈・雪かき応援隊の立ち上げ③
7. 成島環境ボランティアの育成（和紙など地域の魅力説明、コーディネートできる）②
8. コミュニティ版ハローワーク、空き家の紹介（離職・育休中の若者へ農業体験等）④

#### 役員との意見交換

- ・ワークショップで出された意見を実現するために特別予算を出してほしい（共通）
- ・活動計画書を作ったが、役割分担をどういった形で進めていけばいいのか課題（共通）
- ・成島のお宝を再発掘した。今後はこの意見を生かしながら参加者を変えて、若者や女性にターゲットを絞ってワークショップを開催してみるのもいいのではないか（共通）
- ・山野草・山菜・木の実などを採り食べ歩いてみる「成島探検」は成島の良さを子どもに伝える機会となるし、世代間交流を通じて郷土の理解も深まるため是非実現してほしい。
- ・いきいきサロンが人気なので、若い世代バージョンのいきいきサロンを開催してみるのも楽しいのではないか。
- ・素晴らしい成島なのに「人材・歴史・特産」が若い人に受け継がれなくなるのは大きな損失となるので、これを防ぐ具体策を考えていくことが課題。
- ・成島和紙は地元の人にはあまり知られていないが、他県から興味のある人は、成島和紙の価値が素晴らしいことを知っている。もっと外に発信して成島和紙の良さを伝えていきたい。
- ・成島和紙は後継者不足が課題となってきているので、小さい頃から和紙に触れさせて興味を持たせる仕組み作りも必要ではないか。
- ・後継者不足は今後でてくる場所なので、何か具体策を投じる手立てが必要だ。
- ・高校生や大学生といった若者を巻き込んで担い手確保に向けた支援体制は必要と思う。

## 成島まとめ2 子どもの声が聞こえる

検討すべきキーワード	キーワードへの解決策
1) 子どもの居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもサロンの新設（土日等子どもの居場所作り）</li> <li>・地域に託児所</li> <li>・地区の子供達に参加できるイベントを計画（園児のリンゴ狩り）</li> </ul>
2) 支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代への経済的支援</li> <li>・子どもの無料送迎の仕組みづくり</li> <li>・移住者への経済的支援（住宅の提供・奨学金等）</li> <li>・婚活サロンの設置（会話術向上）</li> </ul>
3) 移住者向けのPR強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泣き相撲参加者へ成島地区への移住をPRする</li> <li>・成島保育園入所家庭へ成島地区への移住をPR（外部の方の利用が多ければ）</li> <li>・移住者自らが地区の情報をPRする</li> <li>・ソーシャルメディアを活用し情報を発信させる</li> </ul>
4) 教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有名大学などの誘致</li> <li>・有名大学などの新規整備</li> <li>・地域で塾を作る（勉強のみならず）</li> <li>・スポーツチームを作り育成していく</li> </ul>
<b>成島を変える7の知恵（キーワード）</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成島子供サロン（土日の居場所づくり、ボランティアの託児所）②</li> <li>2. 子どもの参加できる成島ならではのイベント（リンゴ狩りなど）⑨</li> <li>3. 子どもの無料送迎のしくみづくり①</li> <li>4. 成島らしいスポーツチームの育成①</li> <li>5. 子育てする移住者に住宅金、奨学金（定住すれば返還無用）①</li> <li>6. 子育て世代への経済的支援（助成金、教育費無料化）④</li> <li>7. 有名大学などの誘致</li> </ol>	
<b>役員との意見交換</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップで出された意見を実現するために特別予算を出してほしい（共通）</li> <li>・活動計画書を作ったが、役割分担をどういった形で進めていけばいいのか課題（共通）</li> <li>・成島のお宝を再発掘した。今後はこの意見を生かしながら参加者を変えて、若者や女性にターゲットを絞ってワークショップを開催してみるのもいいのではないかと（共通）</li> <li>・子どもの参加できる成島のならではのイベントとして、りんご狩りなど行うことはすぐにでもできそうなことだと思う。</li> <li>・山野草・山菜・木の実などを採り食べ歩いてみる「成島探検」は成島の良さを子どもに伝える機会となるし、世代間交流を通じて郷土の理解も深まるため是非実現してほしい。</li> <li>・毎年、成島保育園の年長の園児たちは、成島和紙を体験している。</li> <li>・子どもが参加できるイベントをたくさん開催して地域を盛り上げてほしい。</li> </ul>	

### 成島まとめ3 ひとり暮らしや高齢者を孤立させない

検討すべきキーワード	キーワードへの解決策
1) 集い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校や子供会に行って講師をする機会を与える(例:漬物づくり、こびる作り、昔の遊び など)</li> <li>・いきいきサロンの継続と充実(送迎等)</li> <li>・高齢者の特技を生かした交流や保育園児との交流を主とした事業計画をする</li> <li>・地域の人たちと歌を歌って楽しむ(童謡・演歌など)</li> <li>・でませ体操を続ける</li> <li>・終活を考える(心の安定、心のケア)</li> </ul>
2) 住環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同作業の積極的利用(草刈り、雪かきなど)</li> <li>・公共施設等のバリアフリー化</li> <li>・高齢者の作業場の整備(人の役に立つ何か)</li> <li>・いつでも学べる場(教室)の提供。男性は将棋、男女集える場</li> <li>・体力づくりのできる場(用具等整っている)の提供</li> </ul>
3) 見守り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所での声かけ運動(安否確認)</li> <li>・月1度お出かけ温泉日和を作る</li> <li>・相手になる((困っていること、若い頃の話をきいてあげる)</li> </ul>

#### 成島を変える10の知恵(キーワード)

1. 小学校や保育園、子供会でお年寄りの講師(漬物作り・こびり作り・昔遊びなど) ⑤
2. 東和弁でシニアの寸劇公演②
3. 体を動かす(体操・呼吸法・歌) ③
4. いつでも学べる機会づくり(将棋・終活・包括支援) ③
5. 足の確保(いきいきサロンなど) ③
6. 男性が参加しやすい集い
7. 近所での声掛け運動②
8. 月1回お出かけ温泉日和(湯のまちホット事業の活用) ②
9. 退職者などによる「成島塾」(勉強以外にも地域の技能、知恵など) ⑧
10. 「定年団」お助けチーム(草刈など) ③

#### 役員との意見交換

- ・ワークショップで出された意見を実現するために特別予算を出してほしい(共通)
- ・活動計画書を作ったが、役割分担をどういった形で進めていけばいいのか課題(共通)
- ・成島のお宝を再発掘した。今後はこの意見を生かしながら参加者を変えて、若者や女性にターゲットを絞ってワークショップを開催してみるのもいいのではないかと(共通)
- ・体を動かすという部分では、元気ででませ体操は人気だし、腰痛に効果ありと皆に喜ばれている。
- ・漬物づくりやこびる作りなども既に実施しており大盛況である。何より振興センターに皆と集まるのが楽しいという声もたくさんあり、喜ばれている。
- ・いきいきサロンは、足の確保を心配しなくても、今年度はこちらから出向いて公民館等に行き「移動いきいきサロン」を6回開催したが大盛況である。
- ・活動計画書を実際に実現していくために、誰とやるかの部分で、他団体に頼るのではなく地元に住んでいる方(個人名)が中心となってという部分は成島独自のチームワークの表れである。
- ・ワークショップに初めて参加したが、1回目2回目では大きなことを話していたのに、3回目では結局、現実に戻ってしまい身近なものとなってしまった。もっととっぴおもしろいことが形となってそれに向けて市が協力して1つの計画が出来るのかと期待していた。

## 成島まとめ4 イベントの活性化

検討すべきキーワード	キーワードへの解決策
1) 伝統行事・継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泣き相撲参加者に、家族で成島に宿泊してもらえるような仕組みづくり</li> <li>・泣き相撲参加者に、東和の観光、物産、イベント情報を発信する</li> <li>・泣き相撲参加者におむつの無料配布(以前に好評)</li> <li>・毘沙門祭りで地場産品の出店</li> <li>・日本一の毘沙門のパワーで受験に勝とう！プロジェクト</li> <li>・現コミュニティや自治会で開催しているイベントの継続</li> </ul>
2) 移住促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農作業体験ツアーを企画(収穫→調理)</li> <li>・成島の住み良いところをPRするイベントを企画</li> <li>・U I J ターン者を発掘するイベントを企画</li> <li>・空き家活用の宿泊施設の整備</li> <li>・市広報だけでなく農業関係の広報も活用</li> <li>・SNSの活用(イベントについてみんなで「いいね」をする)</li> </ul>
3) 企画・開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンプラリーを企画(良い道、危ない道のおさらい)</li> <li>・成島の環境ボランティアを育成(和紙、毘沙門天…の魅力的な説明、宿の手配)</li> <li>・成島和紙を使ったグッズ(スマホケース等)の開発</li> <li>・成島の特産物を作る</li> <li>・成島の産直を作る(常設)</li> </ul>
<b>成島を変える7の知恵(キーワード)</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学生・高校生の農業・雪かきボランティア隊結成</li> <li>2. ターゲットを絞って移住誘致(田舎暮らし志向の子育て世代、泣き相撲参加者、地区外保育所入所者、市営住宅入居者など④)</li> <li>3. I J U ターン者発掘イベント③</li> <li>4. 移住のPR強化(SNS活用・移住者自らによるアピール・農業広報の活用など)③</li> <li>5. 日本一の毘沙門パワーで受験に勝とう！プロジェクト⑥</li> <li>6. 毘沙門まつりに地場産品の出店④</li> <li>7. 空き家活用で移住、体験宿泊用施設に②</li> </ol>	
<b>役員との意見交換</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップで出された意見を実現するために特別予算を出してほしい(共通)</li> <li>・活動計画書を作ったが、役割分担をどういった形で進めていけばいいのか課題(共通)</li> <li>・成島のお宝を再発掘した。今後はこの意見を生かしながら参加者を変えて、若者や女性にターゲットを絞ってワークショップを開催してみるのもいいのではないかと(共通)</li> <li>・イベントの参加数は当時に比べ増えてきているので、参加者数を減少させないためにも今回出た意見を参考として部会で検討し、具体的に取組んでいきたい。</li> <li>・今回初めてワークショップに参加したが、自分では気づけなかったことに気づくことができた。こんなにいいアイデアもあるんだ、もっと付箋に書こう発言しようという気持ちになり、終わる頃にはスッキリとした自分がいた。</li> <li>・イベントに参加された方々はとてもいい表情をしている。コミュニティの役員が親身になって計画立案から当日準備までやっていただいているので感謝している。</li> <li>・成島和紙は地元の人にはあまり知られていないが、他県から興味のある人は、成島和紙の価値が素晴らしいことを知っている。もっと外に発信して成島和紙の良さを伝えていきたい。</li> <li>・成島和紙は後継者不足が課題となってきたので、小さい頃から和紙に触れさせて興味を持たせる仕組み作りも必要ではないか。</li> <li>・市職員の名刺を成島和紙で作成することなど提案したい。</li> </ul>	



## 成島まとめ5 農地を荒らさない・景観を守る

検討すべきキーワード	キーワードへの解決策
1) 担い手確保に向けた支援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農希望者を募る</li> <li>・自治会を利用して若い方に農業指導をする</li> <li>・部落に農産物指導者（インストラクター）を育成</li> <li>・富士大生との研修生受け入れ契約などを取り入れ、体験してもらう</li> </ul>
2) 協同による農用地の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・草刈り応援隊、雪かき応援隊の様な組織の立ち上げ</li> <li>・農地（田畑）を貸して農業体験</li> <li>・他地域（地区）との協同</li> <li>・地域全体で新しい組織を作る（法人化）</li> <li>・耕放棄地を提供してくれる人を募る</li> <li>・新規・特色ある農作物等の開発及びSNSを活用して情報発信</li> </ul>
3) 景観保守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共同でゴミ拾い</li> <li>・山の木々の手入れ（動物、松くい虫）</li> <li>・桜並木の手入れ</li> <li>・田んぼ・桜アート等の取り組みを実施（作る農地から見せる農地へ）</li> <li>・景観に付加価値をつける（ロープウェイ、つり橋等）</li> <li>・川沿いを整備し、人が集える場にする（公園等）</li> <li>・原点にもどる（四角い田んぼから棚田へ）</li> </ul>
成島を変える8の知恵（キーワード）	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 農作業体験ツアー泣き相撲参加者の農家ステイ、1日体験など②</li> <li>2. ふるさと「農」税（農業体験者へ農産物等のプレゼント）</li> <li>3. 新規就農者の公募・受け入れ②</li> <li>4. 地域で農業指導の体制づくり（自治会、部落でインストラクター育成）②</li> <li>5. 地域全体で農業の法人化組織をつくり</li> <li>6. 農村景観づくり（桜並木の手入れ・田んぼアート・川沿いに公園・棚田に戻すなど）⑨</li> <li>7. 成島ならではの特産品を開発する（例：和紙のスマホケースなど成島グッズ）⑥</li> <li>8. 常設産直をつくる③</li> </ol>	
役員との意見交換	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップで出された意見を実現するために特別予算を出してほしい（共通）</li> <li>・活動計画書を作ったが、役割分担をどういった形で進めていけばいいのか課題（共通）</li> <li>・成島のお宝を再発掘した。今後はこの意見を生かしながら参加者を変えて、若者や女性にターゲットを絞ってワークショップを開催してみるのもいいのではないかと（共通）</li> <li>・後継者不足は今後でてくる場所なので、何か具体策を投じる手立てが必要だ。</li> <li>・高校生や大学生といった若者を巻き込んで担い手確保に向けた支援体制は必要と思う。</li> <li>・毘沙門山から見えるたんぼを田んぼアートにして、作る農地から見せる農地という発想は面白いので是非実現してほしい。</li> <li>・事務局主体ではなくて、草刈り応援隊、雪かき応援隊のような組織の立ち上げを、部会が中心となって進めていければもっと地元からの声を吸い上げることができるのではないかとと思う。</li> </ul>	